

ICT活用研修

～やりたい、できたを引き出すための
ICTを活用した授業づくり～

静岡県立吉田特別支援学校
令和6年2月22日

研究目的

授業の導入時に一人一台端末を使用して興味関心を引き出したり、学習評価時に映像やイラストを提示して知識の定着を図ったりすることで、より伝わりやすい授業づくりをしていく。

昨年度までの取り組み

＜実態調査により課題を確認＞

- 使用方法が限定的
- 人によって苦手意識がある

⇒方策①事例紹介

研修で使用方法を周知

方策②利用環境を整備



昨年度までの取り組み

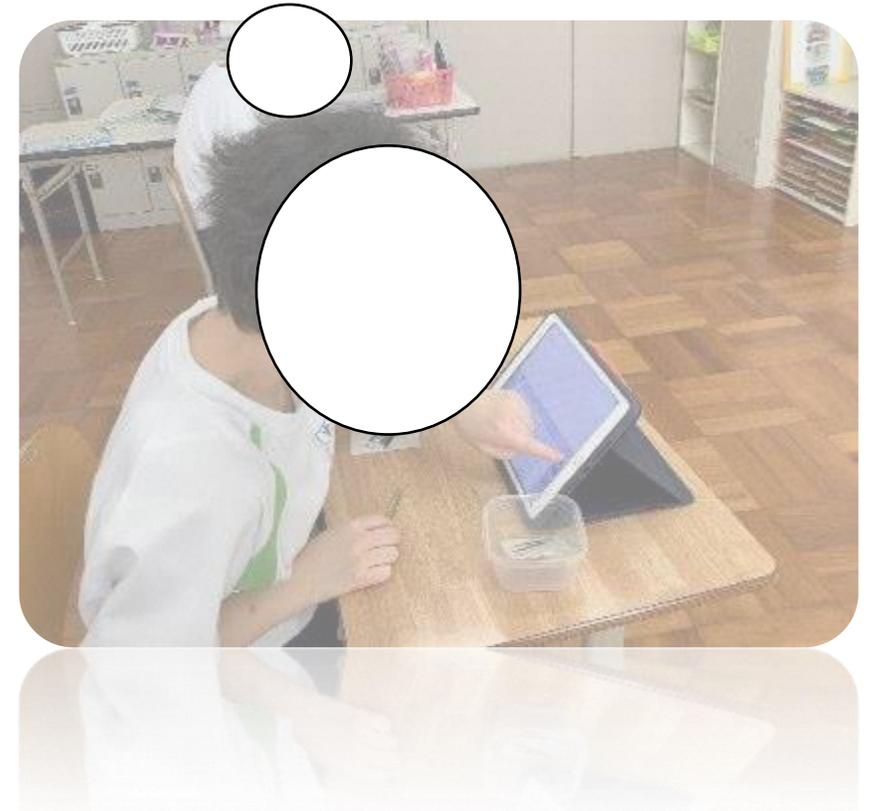
- iPadアプリの研修
（アプリ紹介、使用例紹介）
- 事例紹介学習会
- ZOOM利用研修
- ICTサポート支援員による研修



昨年度までの成果

導入で興味関心を引き出すための事例紹介

ICTを活用することで、児童生徒の意欲・関心をより引き出すことが確認できた。



学習評価時で知識の定着を図るための事例紹介

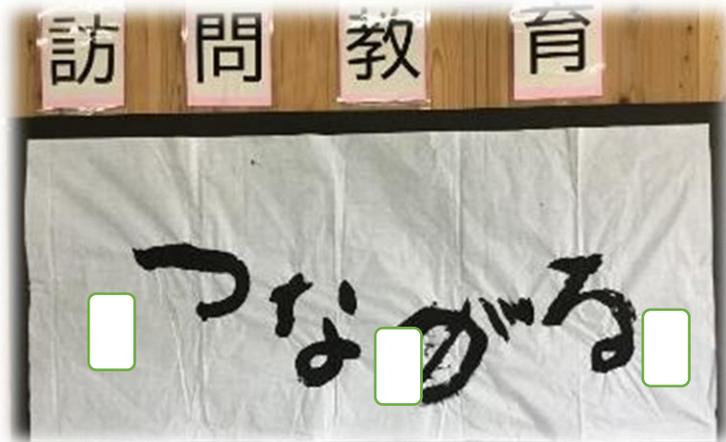
学習評価時に使用することがで、知識の定着を図れることが確認できた。



ZOOM利用研修

「訪問教育」での実践紹介

ZOOMを活用した遠隔学習を実施し、高等部知的学級と生活単元学習や作業学習で共に活動に取り組んだ。



ZOOM利用研修実践の成果

<訪問教育生の成長>

- 見る力の向上
- 意欲向上、期待する姿
- 友達との関わりの広がり

<高等部知的学級生徒の成長>

- 相手を思いやる気持ちの芽生え
- 相手を認め、自分も頑張ろうとする気持ちの成長



今年度の取り組み

ICTをより推進するために、情報共有を学校全体で行った。

- ①ICT初心者向け研修
- ②iPadアプリ学習会
- ③ICT事例パネル発表会
(事例を全校で発表し、
情報を共有する)



①ICT初心者向け研修

プレゼンテーションアプリケーションの活用



アプリケーションの具体的な活用方法を実践しながら学びました。

教師の感想

- 便利な使い方を知ることができた。
- 時短テクニックが素晴らしかった。
- 他の便利な機能もたくさん知りたい。

②iPadアプリ学習会

アプリケーションの講習・紹介

(iMovie、DropTalk、
ZOOM、スフィロ)

学習内で使いやすいコミュニケーションアプリやICT機器について使用しながら学んだ。



教師の感想

- iPadの機能やアプリケーションについて新しく知ることができた。
- 2学期から早速使ってみたい。自分でも色々なアプリケーションを試してみたい。
- 知ってたアプリケーションでも知らない機能があることを知ることができた。

③ICT事例パネル発表会

学部ごとにテーマを決めて活用し、ICT事例パネル発表会という形で、事例共有・活用効果を発表し合った。



小学部のICTテーマ 「自己選択」

● 小学部①

教科・領域

日常生活の指導

アプリ名

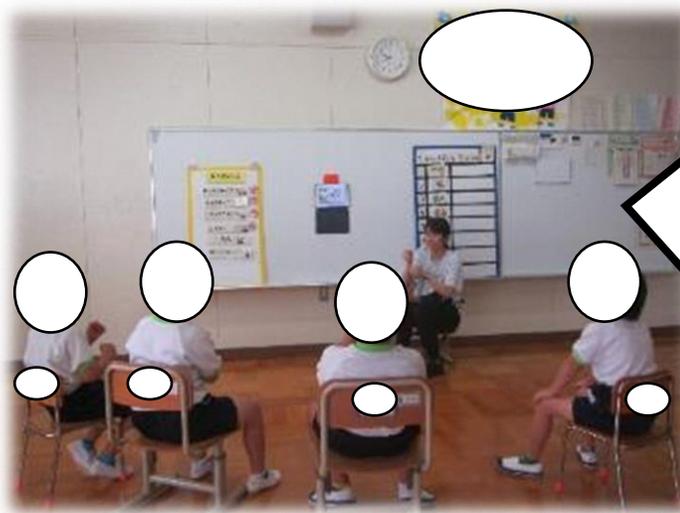
写真アプリ

ICT機器

iPad

実践内容

児童が動画の一覧を見て、歌いたい（聴きたい）曲をタップする。



進んで会話に参加し、好きな曲を選ぶことができた。



好きな歌ができ、その曲が友達に選ばれた時に喜ぶ姿が見られた。

● 小学部②

教科・領域

生活単元学習

アプリ名

Keynote

ICT機器

iPad

実践内容

券売機の画面ボタンを押すと、画面が変わり、切符購入体験ができる。



リアルな模擬授業を
することができた。

教師が指差し
で示した箇所
を指で押すこ
とができる。



示された手順表
の写真とipadの
画面を見比べて、
正しいところを押
すことができるよ
うになった。

小学部の成果

- ・自己選択、自己決定ができるようになった。
- ・iPadを使って児童自身で会を進行できるようにになった。
- ・リアルな模擬体験を通して、校外でも自信を持って活動することができた。

中学部のICTテーマ 「調べ学習」

● 中学部①

教科・領域

総合「吉田町を探検しよう」

アプリ名

Googleマップ

ICT機器

タブレット端末、TV

実践内容

施設や店、その位置情報を調べ、地図上の位置とリンクするように番号をつけ、掲示する。タブレット端末を操作して場所を紹介し合う。

学校を中心とした航空写真の地図から学校と施設や店の位置関係を知ることができた。また、周辺の状況（散策では通らない道や場所）をストリートビューで、知ることができた。



人前で話すことが苦手な生徒も写真をスライドして、自分が撮影した写真を楽しそうに見せていた。写真なので、語彙が少なくても拡大して指差しする等、友達に「伝える」活動ができた。

● 中学部②

教科・領域

生活単元学習

アプリ名

パワーポイント

ICT機器

電子黒板

実践内容

毎時間PowerPointで授業内容や活動手順等を提示する。生徒の発言を直接電子黒板に書き込む。



電子黒板に書きたいと意欲的に取り組むことが増えた。



普段の授業より、意欲的に発表や発言をする生徒が多かった。

中学部の成果

- 情報収集が上手にできるようになった。
- 話すことが難しい生徒も友達に伝えたり、知らせたりすることができた。
- 自分から意欲的に調べようとする生徒が増えた。
- 普段よりも意欲的に発表・発言していた。

高等部のICTテーマ 「アウトプット」

● 高等部①

教科・領域

日常生活や授業

アプリ名

UDトーク

ICT機器

iPad (翻訳機能)

実践内容

教師と関わる際、自分の気持ち、意見を伝える際にiPadの翻訳機能を使用した。具体的な指示を出す際に、iPadの翻訳機能を使用した。



教師対生徒との関係の中でスムーズに意見の交換ができた。

生徒同士でも翻訳機能を介し、気持ちの伝え合いができた。



● 高等部②

教科・領域

作業学習

ICT機器

iPad、電子黒板

アプリ名

iMovie

実践内容

販売会のCM動画を企画・撮影し、お客様に分かりやすいアピール動画を考えた。



動画を比較して、買いたくなる紹介方法を考えた。

どんな要素が動画に入っていると伝わりやすいかを話し合った。



高等部の成果

- ・外国語を母国語とする生徒の理解を深め生活しやすい環境を整えることができた。
- ・CM動画作りを通して、どんな動画が伝わりやすいのかを考え、音やテロップ、ナレーション、映像効果をどう組み合わせ入れてもいいか、お客さんに伝わりやすいかを話し合うことができた。

肢体教育小学部のICTテーマ 「情報共有と評価」

• 肢体教育 小学部

教科・領域

生活単元学習

ICT機器

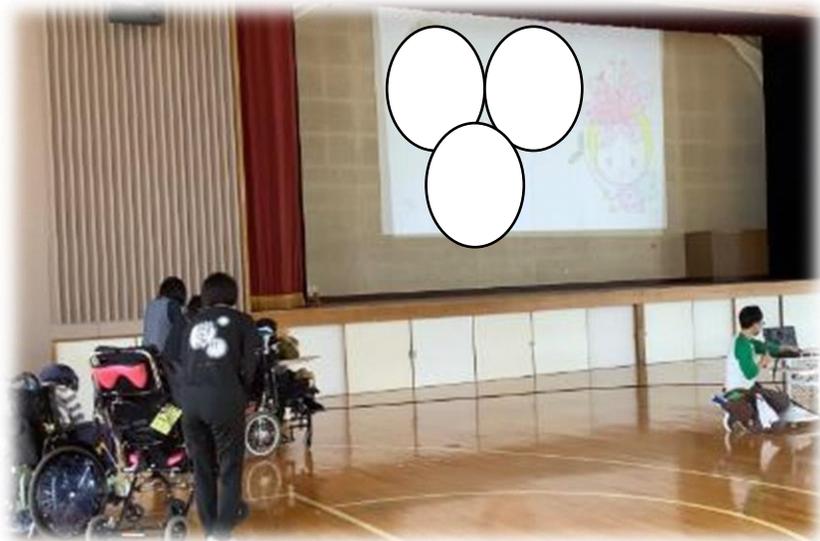
パソコン、電子黒板
プロジェクタ
拡声器

アプリ名

パワーポイント

実践内容

児童の学習の積み重ねをより多くの人が共有できるようにプロジェクターの大画面で評価した。



プロジェクターの方向に視線・顔を向いたり声を上げたりして、意識を向ける様子が見られた。



肢体教育 小学部の成果

- ・ 教師だけでなく、保護者も巻き込んで、児童の学習の積み重ねを共有することができた。
- ・ プロジェクターで評価することにより、他者評価のみならず、自己評価できる児童もいた。
- ・ 友達の学習に注目することができた。

肢体教育高等部のICTテーマ 「自己評価・自己理解」

● 肢体教育 高等部

教科・領域

自立活動

アプリ名

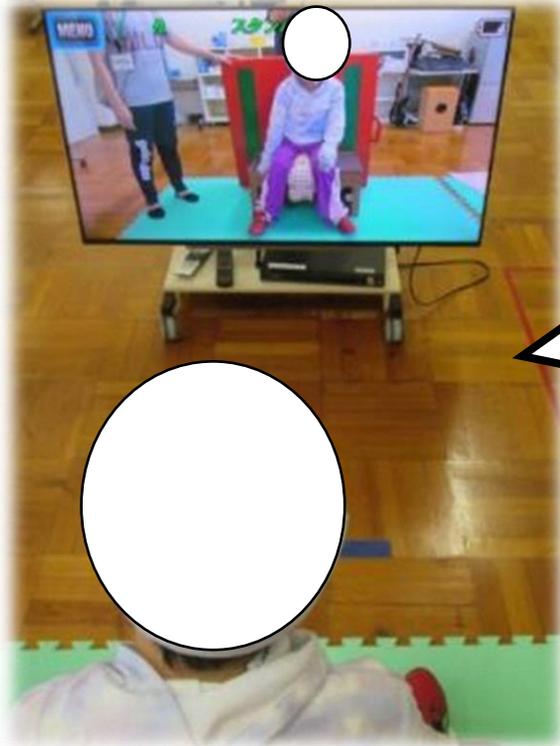
カメラアプリ

ICT機器

ipad、電子黒板

実践内容

自分の姿勢を撮影し、良い姿勢について考えて、姿勢を取る。



テレビ画面に映る自分を客観視しながら、良い姿勢のポイントを考えることができた。

電子黒板に映した自分の画像を見て、姿勢について自己評価していた。



肢体教育 高等部の成果

- ・自分の姿勢を客観的に評価することができた。
- ・どうすれば良い姿勢をとれるのか教師と一緒に考え、気を付けるべきポイントを押さえて意欲的に取り組むことができた。
- ・電子黒板の活用により、本人にとって見やすい、分かりやすい、確認しやすい学習となった。

訪問教育のICTテーマ 「自発的な動き・意思表示」

・訪問教育 高等部

教科・領域

特別活動・自立活動

アプリ名

ZOOM

ICT機器

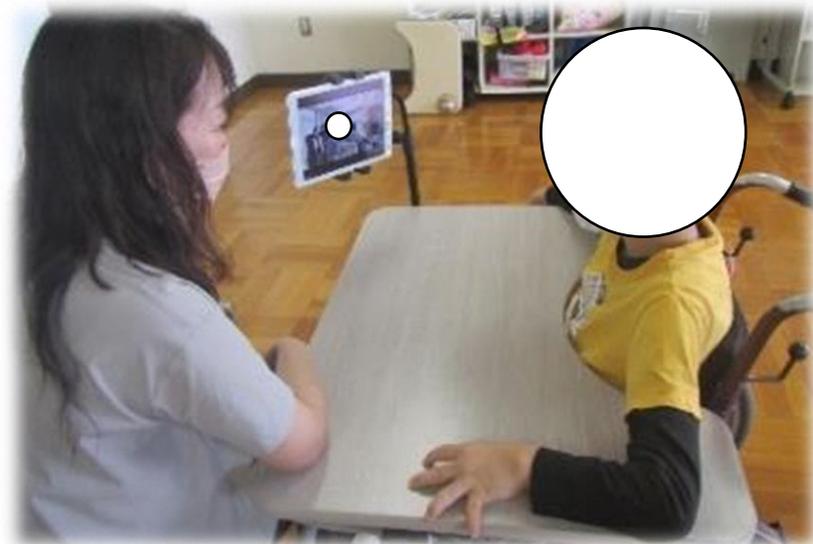
iPad、テレビ

実践内容

授業にZOOMを使って参加した。育てている野菜の様子を発表した。



ZOOMが始まるという期待感で、眼を見開き画面に視線を向けた。友達や先生からの呼びかけに対して、画面に視線を向け、口を動かし返事をする事ができた。



訪問教育 高等部の成果

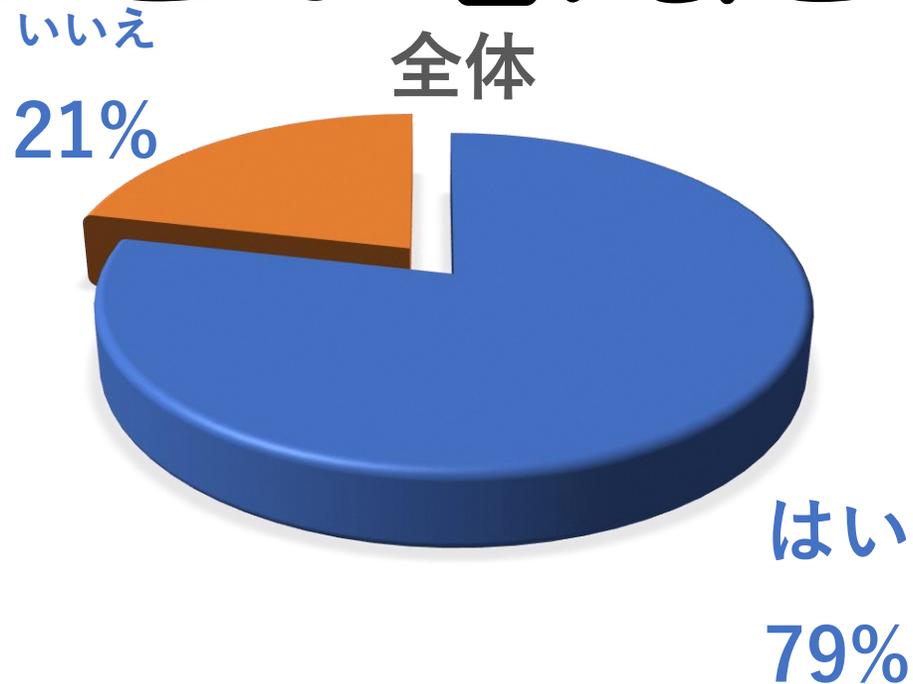
- 学習意欲の向上
- 他者からの働きかけに対し、以前よりも応えようとする行動が増えた。
- 注視する力の向上

ICT事例パネル発表の実施より

- ICTと大きく構えなくても生活や授業の一部としてICTを使えばいいと感じた。
- 自分にはない視点のICTの使い方を知ることができた。
- 学習系アプリケーションの有効的な使い方を知り、学年内でも少しずつ使用が増えた。
- 発語のない児童生徒への活用方法を知ることができた。

「最終調査結果より」

4月よりも1人1台端末を使用することが増えたか。



増えた理由（はい79%）

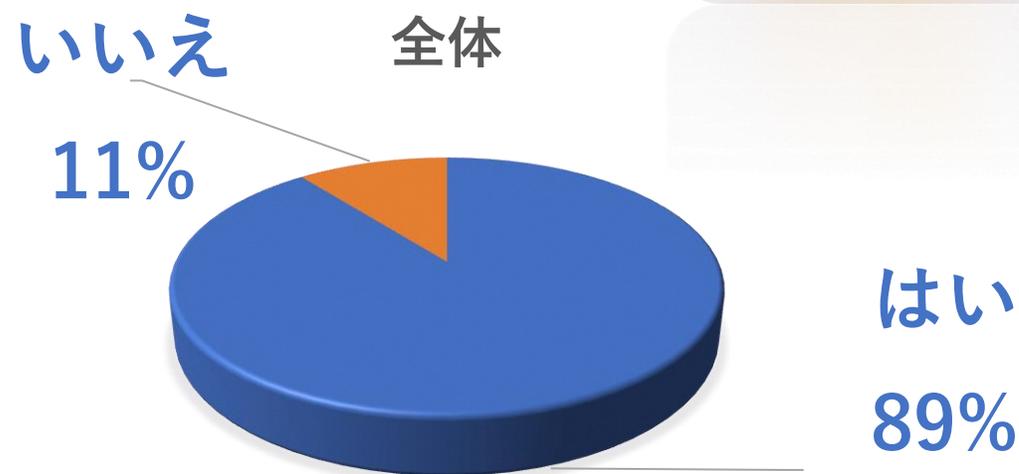
- ・ 4月よりも児童生徒の実態が分かってきて、どの様に活用するのかを考えられる様になったり、使ってみたい場面が増えたため。
- ・ 端末を利用することによる指導の効果が実感できたため。
- ・ 色々な実践を知る中で、自分もチャレンジしようという気持ちが生え、実践したため。

増えなかった理由（いいえ21%）

- 自分自身に苦手意識がある。
- 高等部はiPadもクロームブックも台数がたりないため。
- 担当児童生徒の実態から考えると、活用が難しかった。

「最終調査結果より」

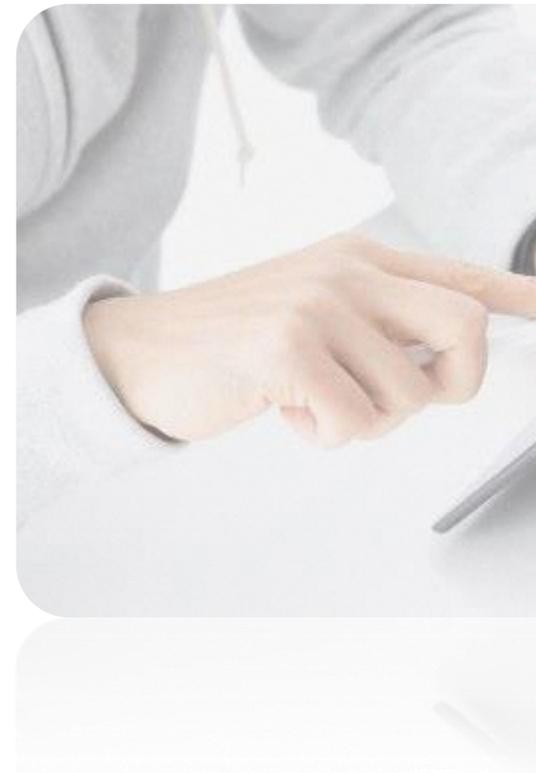
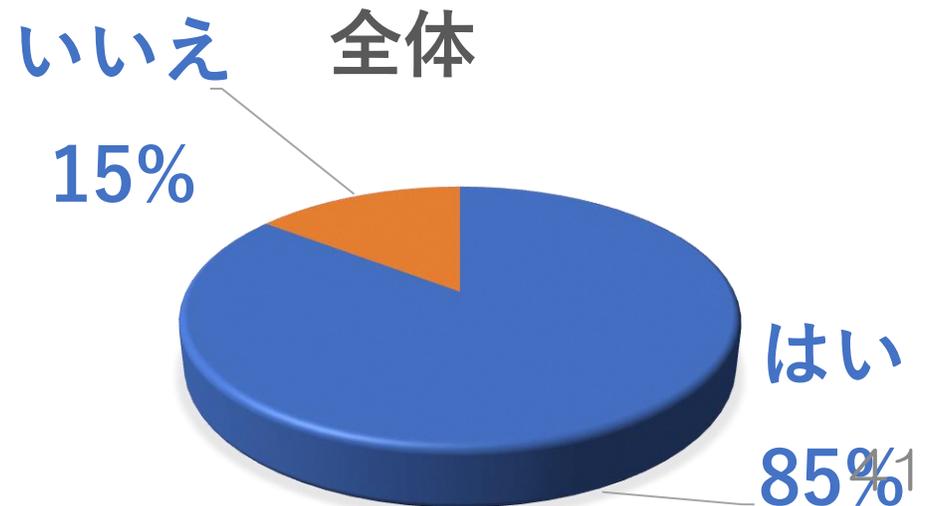
ICT活用事例パネル発表を聞いて、実践につながったか。



「最終調査結果より」

児童生徒の「やりたい」

「できた」の姿を引き出す
ために1人1台端末の活用
が有効だったか。



「はい」の理由（はい85%）

- 意欲的に調べ学習に取り組んでいた。
- 写真やイラストなど視覚的な支援できた。
- 単元導入時に使用することで意欲を引き出した。
- 自己評価に有効だった。
- 自発的な動きを引き出した。

「いいえ」の理由（いいえ15%）

- 自分が有効な活用方法を知らないため、実践できていない。
- 一人一台使用するということが難しい。

「本研究の成果」

児童生徒の変容

- 意欲的に調べようとする生徒の増加
- 自信を持って発表・発言する児童の増加
- 一人で係の仕事をやり返げる姿が増えた。
- 自発的な動きが増えた。
- 活動内容や簡単なルールを理解し、落ち着いて活動に取り組む姿の増加
- 調べたことをまとめ・発表する力の向上



「本研究の成果」

教員の変容

⇒一人一台端末の有効性を実感

- 使用する機器の種類が増加
- 1人1台端末の使用回数が増加
- 1人1台端末の有効性の実感
- アプリケーションの授業実践の増加
- 使用場面の広がり



「本研究の成果」

一人一台端末の活用により、児童生徒の興味関心を引き出したり、知識の定着を図ったりすることができ「やりたい、できた」の姿につなげることができた。



ご視聴ありがとうございました。
ございました。